

V 地域交流（平成27年後期・28年前期）

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-05-01 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 案野, 香子, 袴田, 麻里 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.14945/00010077

V 地域交流（平成27年後期・28年前期）

案野 香子／袴田 麻里

平成27年10月14日(水)、静岡県立浜松北高校国際科の生徒40名が授業の一環として来校し、留学生と英語で交流した。

10月18日(日)に、静岡県留学生支援ネットワークが富士山バスツアーを実施し、静岡大学からは留学生、日本人学生合わせて50名ほどが参加した。

10月25日(日)、静岡市青少年国際親善交流事業の活動の「昔の遊びにチャレンジ」に留学生7名が参加し、地域の小学生たちと交流したり、一緒に日本のけん玉や独楽などで遊び、楽しいひと時を過ごした。

同じく10月25日(日)に、榛葉鉄工所株式会社からのご招待により、浜松キャンパスの留学生、外国人研究者が家族ともに交流会に参加し、つま恋リゾートでレクリエーションを楽しみながら社員の方々と交流した。

11月13日(金)から15日(日)まで、浜松キャンパスの留学生9名（インドネシア6、タイ2、インド1）が、浜松市内の家庭でホームステイし、日本の生活様式や習慣、文化を体験した。

10月22日(土)には3名のアジア出身の留学生が静岡ユネスコ協会主催の「アジアの国からの留学生と作ろう・語ろう・遊ぼう」というイベントに参加し、小学4年生から中学3年生までの子供たちと交流を行った。

11月26日(土)に、静岡市青少年育成課との共催で、ホームビジットが行われ、10名の留学生が参加し、学外の日本人の家庭で新鮮な一日を過ごした。

11月28日(土)は、同じく静岡市青少年国際親善交流事業の活動である「座禅にチャレンジ」に7名の留学生が参加し、小学生たちと交流したり、臨濟寺で座禅を組んだり、境内を見学したりした。

12月8日(火)、12月9日(水)、1月19日(火)、1月20日(水)に、静岡大学附属浜松中学校3年生の英語授業をバングラデシュ、インド、インドネシアなどの留学生・外国人研究者が訪問し、中学生と日本や母国について英語で話し合った。

同じく2月7日(日)には、静岡市登呂公園にて、静岡市青少年育成課親善交流事業の活動である「餅つき」が行われ、10名の留学生が参加し、小学生と交流したり、餅つきを体験したり、できたての餅に舌鼓をうった。

1月31日(日)に、NPO法人浜松日中文化交流会主催の春節パーティーが開催され、浜松キャンパスの中国人留学生や研究者、およびその家族約40名が招待され、ゲームや歌、楽器演奏などを通して、お互いの交流を深めた。

2月11日（木・祝）に、留学生科目日本語Ⅳの受講生が、浜松国際交流協会と協力して、県内企業との交流会を企画した。受講生が直接企業に連絡を取った結果、9社の参加を得て、日本企業について、留学生の雇用について佐鳴会館で話し合った。

5月14日(土)に、着物教室「るりの会」主催の着物ショーが静岡市グランシップで行われ、5名の留学生が艶やかな振袖や羽織袴に身を包み、着物モデルとして演技を行った。

7月25日(月)に静岡国際経済振興会「外国人留学生企業交流会」を浜松キャンパスで実施し、修士、博士の留学生を中心に約50名が18社の人事担当者と交流した。

同じく、7月25日(月)にふじのくに地域・大学コンソーシアムと協働で「留学就職支援講座」のプレ講座を実施し、日本語能力の高い10名ほどの留学生が受講登録をした。

7月31日(日)に、NPO法人浜松日中文化交流会の「日中文化の集い」に浜松キャンパスの中国人留学生や研究者、およびその家族約30名が招待され、中国舞踊を披露したり、生け花を体験するなど文化交流を楽しんだ。

企業と留学生との交流会

袴田 麻里

平成28年7月25日(月)に「外国人留学生企業交流会」が静岡大学浜松キャンパスさなる会館で行われ、修士、博士の留学生を中心に約50名が企業の人事担当者と直接話をする機会を得、同時に企業の方々には静岡大学にどのような留学生がいるかを知っていただくことができた。

平成20年に留学生30万人計画が発表され、留学生受入れ機関は留学生の就職支援に力を入れるようになった。その中で、静岡県は自治体としても留学生の就職支援に力を入れている県である。平成26年にふじのくに地域・大学コンソーシアム（以下、コンソーシアム）が設立され（平成27年に公益社団法人化）、毎年留学生対象の企業交流会や就職支援講座などさまざまな取り組みが行われている。

静岡大学浜松キャンパスは理系の専門分野を専攻する留学生が多く、修士課程、博士課程においても日本での就職を希望する留学生も少なくない。彼らは留学生を対象とする企業説明会や企業との交流会に参加を希望するが、学外での開催の場合、場所が分からない、時間が限られるなどの理由で、参加が難しいのが実情である。また、日本語能力が初級から中級程度であることが多く、これらの情報を適切に受け取れない留学生もいる。

そこで、コンソーシアムから委託を受けて「外国人留学生企業交流会」を実施する公益社団法人静岡国際経済振興会（以下、SIBA）に、平成28年の浜松での開催を静岡大学浜松キャンパスでお願いしたいと申し出た。学内で開催することによって、場所が分かりやすくなり、また授業と授業の1時間程度の空き時間にも参加できるためである。同時に、チラシや当日配布資料をできるだけ日本語・英語併記で作成いただくことをお願いした。これは静岡大学浜松キャンパスの留学生の過半数を占める英語コースの留学生の参加を促すと同時に、彼らの属性や資質を、企業の皆様に正確に把握いただきたいという意図からである。

今回、非常に参加者が多かった理由は、学内での実施、日本語・英語での広報の効果が大きい、日本語授業と重ねたためでもある。静岡大学では補講的なコースとして、日本語教育プログラムを開講している。平成28年度前期の日本語教育プログラム「日本語3-c（中級前半、作文・話し方）」の最終授業と、この交流会を重ね、交流会で自己紹介や自

国の説明を発表するタスクを与えた。その結果、受講生が参加するのはもちろんだが、受講生の同級生らが発表を聞きに参加し、そのまま企業との交流会に参加したのである。

このようなタイアップは、今年度初めて企画した。企業との交流会の実施は、大学単体では難しいが、自治体や企業団体との連携によって多くの留学生が企業の方々と接触する機会を持つことができる。今回は交流会と日本語での発表を組み合わせたため時間が超過してしまっただが、今後もよりよい形での連携を模索したい。

静岡国際交流会館を利用した地域住民との交流会

案野 香子

平成28年4月に静岡国際交流会館が小鹿（おしか）3丁目に新築され、従来の居住者は旧国際交流会館から転居し、4月入学の入居者は新しい国際交流会館に入ることとなった。小鹿3丁目は閑静な住宅街で、外国人が90人近く新しく入ってくることに、当初一部の住民からは心配の声があがっていたそうである。しかし、静岡大学という大学のレベルの高い学生であることから、迷惑をかけるような留学生はいないであろうと、了解したうえで国際交流会館を受け入れることとなったとのことである。しかしながら、実際、地域に国際交流会館が新築されると、住民は関心はあるもののどう接したらよいかわからなかった。

そこで、平成28年5月25日(水)に、国際交流会館の多目的室を利用し、国際交流センター主催で小鹿の住民と留学生との交流会を行った。小鹿の住民の国際交流会館への関心は想像以上に高く、自治会長、隣接学区の自治会長はじめ、28人の参加があった。留学生も15名ほど参加し、さらに国際交流センターの教職員10名との交流をもった。簡単なゲームや飲食を行いながら、親睦を深めた。さらに、小鹿の住民対象に空き部屋の内覧会を実施し、国際交流会館の部屋の造りを確かめてもらった。

この交流会は大変好評で、小鹿の住民と留学生の顔合わせとなっただけでなく、その後知り合いになった留学生と道で挨拶をしたり、異国への理解を深めたりできたとの感想をもらい、留学生が小鹿に快く受け入れられる下地になったと言える。

その後も、静岡市の運動会が行われた際にも、学区の仲間として5名招待され、地域に溶け込めるようになったと思われる。

今後も国際交流会館を地域の核として活用し、地域住民と留学生の交流の橋渡しの場として提供していきたいと考えている。